



2024(令和6)年2月16日

福山市立日吉台小学校

5年学年通信 No.29

「あすチャレ! スクール」開催

2月8日(木)に「あすチャレ!スクール」に参加しました。「あすチャレ!スクール」は、日本財団パラスポーツサポートセンターが行っている事業です。2000年シドニーパラリンピック男子車いすバスケットボール日本代表キャプテン根木慎志さんから「障がいとは何か。」「夢や目標を持ち、チャレンジすることの大切さとは。」「多様性が尊重される共生社会とは。」について教えて頂き、考えることができました。

子どもたちの感想に、「事故は、人が起こす。事故を起こすことで、障がいにつながることもある。事故で、目が見えなくなってしまうたら、人が作った点字ブロックや点字、白杖で困ることがなくなるようにできる。人が作ったものや協力という人の力で障がいをなくすことができるなら、障がいをなくすことができる人になりたい。」とありました。私たち、一人一人の行動で、みんなが過ごしやすい世の中にするができます。「自分にできることは何か。」「どんなことをしたいか。」などたくさんのことを考え、学ぶ時間になりました。



明日へのチャレンジ

南谷 清翔

二〇〇〇年シドニーパラリンピック車いすバスケットボール日本代表の根木慎志さんが、「チャレンジすることの大切さ」と「車いすバスケットボール」を教えるに来て下さった。

まず教えて下さったことは、チャレンジとはどういうことかだ。チャレンジとは、「やることではなく、『やってみようかな。』と考えること。」とおっしゃった。僕は、やるかやらないかではなく、考えることが大切だと分かった。

次に、応援についてだ。根木さんは、小学生の時に跳び箱が苦手だった。しかし、「応援してくれる仲間がいたから頑張れたし、応援されてそのありがたさが分かったから、自分も応援できるようにになった。」とおっしゃっていた。僕も、そういう経験があるから応援できるようにになったと思った。

(中略)

このあすチャレスクールを通して、僕は、チャレンジに対する概念が変わった。チャレンジは、やることではなく考えること。これからも、どんどんチャレンジしていきたい。

車いすバスケットボール体験

瀬戸 若菜

パラリンピックに出ている根木選手が、私たちに車いすバスケットボールを教えて下さったり、話をして下さったりした。

車いすバスケットボールの試合体験は、クラスで選抜して参加する人を決めた。私は、挑戦してみたいけれど、上手にできる自信がもてず、手を挙げる事ができなかった。しかし、先生が誘ってくれたり、友達が「頑張れ。」と言ってくれたりして、やってみようと思えるようになった。試合をする前は、緊張していた。しかし、試合が始まると、車いすでの動きも分かるようになった。シュートを決めることはできなかったけれど、心の底から、「やる事ができてよかった。楽しかった。」と思った。(中略)

あすチャレで、「できなくてもチャレンジすることは、すごい。」「みんなの応援があったからできることがある。」「応援で力づく。」ということが分かった。それを教えて下さったことが本当にありがたいと思った。

